

博士課程プログラム(3年間)

博士課程 防災学プログラム

1. 目的

都会化や工業化の進展、気候変動などにより、水災害は世界中で増え続け深刻化しており、激甚な被害が発生している。また、被害が経済発展を著しく阻害している。

災害に対する抵抗力を構築し持続的な開発を行うためには能力開発と人材育成が基本となることがますます明確になっており、水災害リスクマネジメントの研究者や教育者、戦略・政策立案者を養成する能力の向上が急がれている。

このため、政策研究大学院大学(GRIPS)、土木研究所水災害リスクマネジメント国際センター(ICHARM)は、水災害リスクマネジメント分野において国及び国際的な戦略・政策の企画・実践を指導し、研究者を養成できる人材を養成することを目的として、共同して、博士課程防災学プログラムを2010年10月に創設した。

2.対象者

博士課程防災学プログラムでは、毎年度1～3名程度の学生を受け入れる。

すでに修士学位を取得し、もしくは同等の能力を有し、大学、研究機関あるいは政府関係機関等における水災害リスクマネジメント分野の研究経験や実務経験を有する候補者から決定する。博士課程修了後は、出身国機関に戻ってICHARMでの習得内容を指導的立場から実践することが期待される者から決定する。

独立行政法人土木研究所(PWRI)は ICHARM リサーチ・アシスタント(ICHARM RA)を募集しており、ICHARM RA に採用された場合には、ICHARM の研究補助業務に従事する機会が提供される。これは、研究を行いながら ICHARM での実務を学び経験できる非常に良い機会となる。

3. 概要

本プログラムはすべて英語により行われる。

海外からの学生が本プログラムを修了するために必要な在留期間は原則として3年間である。

1年次の終了時には、論文計画案を提出し博士論文提出資格試験(Qualifying Examination / QE)に合格することが望まれる。QEの受験資格を得るためには、授業科目8単位以上を取得しなければならない。なお、この他に、指導教員委員会から防災学系科目の履修が必要との指導があった場合には、4単位以内で、当該科目を履修しなければならない。QEに合格すると、3年次の終了前までに博士論文を完成させることを目標とし、2年次から論文の作成を始めることができる。

博士論文執筆中の学生は、Ph. D. Candidate Seminarにおいて、計画中あるいは進行中の研究内容を報告しなければならない。

博士学位授与の前に、博士論文に加えて、査読付論文を関連国際誌で2編以上出版しなければならない(掲載決定している場合をふくむ)。

4. 授業科目

1) 防災学系科目 (それぞれ2単位)

- ・総合洪水マネジメント特論
- ・水文学特論
- ・洪水水理学と土砂輸送特論
- ・土砂輸送機構と河道変化特論
- ・水理学特論

2) 開発系科目 (それぞれ2単位)

- ・防災政策特論
- ・国土開発政策と社会資本整備特論
- ・防災リスクマネジメント特論

この他に、東京大学との単位相互認定制度がある。

5. 研究指導

主指導教員1名(GRIPSまたはICHARMの教員)及び副指導教員1~3名(GRIPSまたはICHARMの教員)が指導教員委員会を構成し、学生の指導にあたる。